

第一回運営委員会報告

一、期 日 四十三年十一月三十日 午後二時より

二、場 所 関西学院大学

三、出席者 後藤和夫 松本通晴 余田博通 光吉利之

(オブザーバー) 二宮哲雄

四、議題および議事内容

(1) 大会運営について

自由報告と共通課題に関する報告の二本だてにすることを決定。

(2) 共通課題について

運営委員が各地に散在されており全体会議をもつことが困難な

ので、とりあえず大阪近辺の運営委員により原案を作成し、各地区の運営委員に検討を依頼することに決定した。なお、共通課題の原案として左記の三つのテーマが選定された。

(イ) テーマ選択の基本原則

(i) 昨年度までに取上げられたテーマを総括し、その成果をふまえた上で再度「村落構造」とは何かについて検討しうるようなテーマであること。

(ii) 社会学のみではなく他の諸科学（経済学、経済史学、民族学、地理学等）からも接近可能なテーマであること。

(ロ) 原案として選ばれた三つのテーマ

(i) 村落類型論の再検討。すでに社会学、経済学、民族学等の諸領域において展開された類型論があるが、これらの既存の類型論を従来の村研の成果をふまえて再検討し、新しい類型構成への展望を明らかにする。

(ii) 村落構造の変化を阻止するもの。昨年、一昨年度には「推進力」がとりあげられたが、これらの成果を総括して変化を阻止する要因を明らかにする。なおこの問題については、たとえば「封建遺制」を取上げるのか、あるいは「政策」の側面から取上げるのかというように多様なアプローチが想定される。したがって、これを選ぶ場合にはさらに問題点を明確にすることが要請される。

(iii) 村落構造分析の「方法」について、（あるいは村落研究の方法）。従来取上げられた多くのテーマと成果を整理

する意味で村落構造分析の方法を再検討する。この場合も社会学、経済学その他の学問領域において展開された方法をそれぞれ日本もふくめた国際的視野から再検討する。

共通課題に関する運営委員のご意見

第一回運営委員会で作成された共通課題に関する原案にたいして当日ご出席いただけなかった運営委員に検討をお願いしたところ、八名の方々からご返事があった。それを極く大雑把に整理すると次のようになる。

一、「方法論」。この場合は具体的なモノグラフをふまえて方法論を取上げるか、あるいは従来の諸研究の方法論的成果の批判と検討という形で取上げるのもよい。また、抽象的な方法の討論におわらせないで、方法論の生み出されてきた歴史的必然性と論理的経緯を相互に提出しあってゆくという方向も考えられる。なお、ご回答の中ではこのテーマを希望される委員がもつとも多かった。

二、自由報告のみとする。従来共通課題はいわばみな無理をしてやってきたという面もあるということ、また、現在の大学状態では特殊テーマを設定してもその課題に即して研究を進めるのにかんがりの困難が予想されるという理由で自由報告のみに限定してはどうかというご意見があった。たゞし、この場合報告の中から興味あるものを一つ選んで、それについて共同討論をしてはどうかという提案があった。

三、以上の外に「村落構造を阻止するもの」として水田をいし稲作と村落構造をとりあげ最近の国の米対策の変化がそれにどう影響するかを検討してはどうかという意見もあった。

なお、昨年度の大会において一般の会員から希望として提出された本年度の共通課題目は次のとうりであった。

- ◇ 地域開発と社会計画
- ◇ 農村諸集団の検討
- ◇ 村落生活と農村問題
- ◇ 漁業村落の研究
- ◇ 過疎化現象にともなう村落構造の変化
- ◇ 村と家族の歴史的位置づけ
- ◇ 鎮守と葬式の問題
- ◇ 村の生活組織とその統合性
- ◇ 村の性格と機能
- ◇ 新しい農村社会
- ◇ 農村社会の変化の展望
- ◇ 村落社会と農村家族
- ◇ 村落社会の土地所有形態
- ◇ 地域類型の再検討
- ◇ 村落変化の歴史的段階的性格——推進力の歴史的展開としての農民運動に視点をすえて——
- ◇ 兼業農村の村落社会構造
- ◇ 過疎地域農村社会の問題
- ◇ 都市化と農村——さいごに残される共同生活組織——